

厚生労働省医薬・生活衛生局水道課 事務連絡（平成30年5月23日）
「橋梁添架したポリエチレン管の漏水事故について（情報提供）」に関して<続報>

平素より弊協会活動へのご理解、ご支援を頂き、厚く御礼を申し上げます。
この度は、「橋梁添架した鋼帯がい装ポリエチレン管の漏水事故」により、生活にご支障を被られた方々にお見舞い申し上げます。

首記の件、厚生労働省水道課の事務連絡が発信されて以降、POLITEC や会員企業にお問い合わせ頂いておりますが、事務連絡にある通り、山口県と岡山県で発生しました漏水事故にて使用されていた製品は「鋼帯がい装ポリエチレン管」であり、弊協会規格品では有りません。

弊協会規格品を橋梁添架する際の考え方は以下の通りです。

（1）支持間隔について

日本水道鋼管協会発行の「水管橋設計基準」に準じ、管体に発生する応力とたわみを求め、許容値以下になるよう設計しております。

標準支持間隔は布設条件等により異なりますが、概ね下表の通りです。

表 POLITEC 会員メーカーの推奨する標準支持間隔

呼び径	標準支持間隔※
50	0.9 ～ 1.2m
75	1.0 ～ 1.6m
100	1.7 ～ 2.0m
150	2.0 ～ 2.5m
200	2.0 ～ 2.5m

※ 条件により異なりますので、詳細は会員メーカーにお問い合わせください。

尚、山口県内に布設された鋼帯がい装ポリエチレン管の配管条件※では上記設計基準に準じて計算した場合、たわみ量が大きく「適用不可」になるものと考えます。

※鋼帯がい装ポリエチレン管 450A (49kg/m)、支持中央付近にフランジ接合部（総重量 192kg）を有し、支持間隔 6m で配管した場合。

（2）水道配水用ポリエチレン管の配管システムについて

弊協会では「フランジ付 EF チーズ」や「PE 挿し口付 T 字管」等の品揃えによって、EF 接合による管路を構築できるシステムであり、橋梁添架においても同様です。

以上、この度の厚生労働省水道課様からの事務連絡対象品について、技術的な側面から続報としてご報告申し上げます。本件については新たな情報が確認出来次第、随時情報を発信させて頂く予定です。